平成29・30年度「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」成果報告資料

推進地域名【　稲敷市教育委員会　】

１．推進地域の現状と課題及び調査研究の目的

稲敷市桜川地区には，地域に残る「あんばばやし」という芸座と踊りを受け継ぎ，年間を通して地域の文化との関わりを大切にしている小学校がある。また，他の地域にも，祇園祭りで使われている笛や太鼓を学習している小学校がある。他の市町村に比べ，祭礼に使われる笛や太鼓を使った伝統芸能に触れる機会が多いことが特徴である。

伝統芸能を継承し，小学校の活動にも取り入れている地域では，その伝統芸能の保存会があり，学校と連携して取り組んでいる状況もある。しかしながら，一部の地域だけの取組であったり，小学校と中学校のつながりがないという課題も見られる。

そこで，本市では，伝統芸能「あんばばやし」を，地域の保存会の協力を得ながら，実際に児童が演奏し，踊る体験を通して，その伝統と継承してきた人々の思いを学ぶ授業づくりを行った。そして，伝統文化の継承者として地域に自信と誇りをもって生きていくことができるような力を育てる学習プログラムについて研究することとした。

２．調査研究の実施内容

（１）具体的な実施内容　類型【　Ⅱ　】

稲敷市立阿波小学校における取組の概要

【趣　旨】

阿波小学校では，40 年以上にわたり，あんばばやし保存会により，学校教育活動に位置付けた伝統文化継承活動が続けられている。しかし，児童には，自分が長い歴史を受け継いできた伝統文化の継承者であるという自覚が十分に理解されていない様子が見られる。３年後に桜川地区小学校３校の統合計画が進む中，あんばばやしの継承は，大きな課題となっている。

そこで，研究主題を「地域の伝統文化を大切にし，誇りをもってたくましく生き抜く児童の育成　―伝統芸能「あんばばやし」を中心とした特色ある教育活動を通して―」と設定し，学校教育活動全体を通して，研究に取り組んだ。

【ねらい】

児童が体験活動を通して，地域に残る伝統や文化について学習することで，日本人として大切にしてきた伝統や文化への理解を深め，自らが語り，継承していくことができるような児童の育成を推進する。

【方　法】

年間指導計画の見直しを行い，総合的な学習の時間を中核とし，教科横断的な学びの確立を図った。さらに，地域との連携を図り，伝承活動の充実を図った。

≪学びのステージ　（学びの階層化）≫

伝統文化への意識化を図るため，各教科において学習を以下の４つの学びのステージに分類し，学びを階層化するとともに，児童の視点から学習を段階的に進めることとした。

①　ステージ１　知る（地域を知る）

○伝統芸能に関心をもつ　　○踊りの指導　　○地域を知る

②　ステージ２　広げる（対話による広がり）

○地域を調べる　　○下級生への発表と表現の工夫

③　ステージ３　深める（思いの共有）

○継承者としての思いを深める　　○それぞれの立場を尊重しながら議論する

○次年度の芸座連の結成

④ ステージ４　活かす（学びの日常化）

○地域芸能活動への参加・発表　　○継承者としての誇り

≪授業の実践≫

① ステージ１　知る（地域を知る）

ア　第１学年　生活科「むかしのあそびをしよう」の取組

１年生では，昔の遊びの活動の中に，和楽器を取り入れ，普段耳にしているお囃子の音や道具に自然と触れられるようにした。あんばばやし保存会や地域のお年寄りとの触れ合いを通じて，和楽器に触れ，お年寄りの優しさやすばらしさにも気付けるようにした。

＜第１学年の授業の様子＞

イ　第２学年　第３学年の総合的な学習に参加して

２年生は，あんばばやしの踊りは経験しているものの，その歴史等の知識はないため，３年生の行うあんばばやしに関する調べ学習の発表会に参加することで，興味・関心を高められると考えた。２年生児童は，質問をするなど，意欲的な姿が見られた。

＜第２－３学年の授業の様子＞

② ステージ２　広げる（対話による広がり）

ア　第３学年　総合的な学習の時間

３年生の総合的な学習の時間において，「稲敷市の伝統行事・芸能・名所を探ろう～調べたことを２年生に紹介しよう～」という学習を設定した。児童は，稲敷市の名所を訪れ，地域のよさを感じながら，歴史等を調べるとともに，その内容を２年生に伝えることを通して，より深い学びを得ることができた。

＜第４学年の授業の様子＞

イ　第４学年　外国語活動　「いろいろな国のおどり」の取組

４年生にはスリランカ人である女子が在籍しており，本校ＡＬＴは，フィリピンの出身である。そこで，スリランカ，フィリピン，あんばばやしの３つの踊りを一緒に踊り，その違いを知ることで，それぞれのよさや楽しさを味わうきっかけとした。児童は，簡単な英語を使った交流活動を通して，自国や外国の文化に触れ，親しみをもつことができた。

＜第５学年の授業の様子＞

③ ステージ３　深める（思いの共有）

ア　第５学年　特別の教科　道徳　「大輔とあんばばやし」の取組

５年生になると，６年生とともに横笛を演奏する。横笛は難しく，児童の中には，芸座を嫌がる様子も見られる。そこで，本音で思いを語れる道徳の時間を目指し，「郷土愛」を主題とした自作教材を作成した。また，ゲストティーチャーとして３世代であんばばやしを継承し，自作資料と同じ環境であった方にその思いを語っていただいた。幼いころから伝統文化を継承してきた地域の方の思いを耳にしたことで，郷土やあんばばやしへの思いをより深めることができた。

＜第６学年の授業の様子＞

イ　第６学年　国語科の取組

６年生は，国語で「町の未来をえがこう　町の幸福論　－コミュニティデザインを考える－ 」の学習を行った。話合

い活動を中心に，自分たちが通った阿波小学校の２年後の統合に向け，あんばばやしの伝統を守っていくには，どんな行動が必要か，他校へのどんなアプローチが必要か，これまで学んできたあんばばやしへの理解や思いを整理しながら，未来につながる町づくりについて議論した。さらに，他校の伝統文化にも目を向けていきたいなどの意見が出され，全員が未来に向けての考えを広げ，表現することができた。

④　ステージ４　活かす（学びの日常化）

ア 校内での活動の取組

学校内では，保護者をはじめとして地域の方々に参加を依頼する行事が年間数回あり，児童の芸座の取組の成果を発表できるよう企画されている。具体的には，１学期の「ふれあい活動」，２学期の「運動会」「芸座引継ぎ式」，３学期の「ありがとう集会」などがある。芸座披露の場は，芸座の楽しさや地域のよさ，あたたかさ，さらには満足感と達成感を感じることができる大切なイベントである。

＜運動会での発表の様子＞

＜市文化祭での発表の様子＞

イ 校外での活動の実践

毎年，稲敷市の文化祭では，あんばばやしの芸座・踊りの発表がプログラムの中に組み込まれ，児童の発表の場が提供されている。何百年も大切に守り，継承されてきたお囃子と踊りをこれからも守り続けていくためには，様々な方に対してその存在を知ってもらう必要がある。市の文化祭は，その絶好の場である。観客から温かい視線・拍手をいただき，児童にとって大変大きな自信が湧いてくる場になっている。

（２）成果の検証

児童の意識の変容

各学年ブロックの発達段階を考慮した様々な実践により，目指す児童像に近付くことができた。また，児童の意識アンケート調査結果の変容から，以下の４点が成果として挙げられる。

○　住んでいる地域に愛着や誇りをもつ児童が増えた。

○　「伝統を受け継いできた人々の思いや願い」についての理解を深めることができた。

○　伝統芸能を受け継いでいこうとする心情を育てることができた。
（H29.11 月 46.3% →H30.9 月 82.3%への向上が見られた。）

○　自分の地域の伝統だけでなく他の地域の伝統も大切にしようとする心が芽生えた。
（H29.11 月 23.1% →H30.9 月 65.5%への向上が見られた。）

３・４・５・６年生への調査
（H30 年度 51 名　H29 年度　54 名）

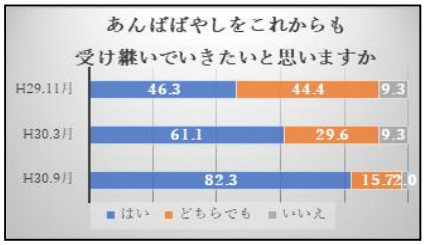

図１　「あんばばやしをこれからも受け継いでいきたい」と回答した児童の割合

５・６年生への調査
（H30 年度 29 名　H29 年度　26 名）

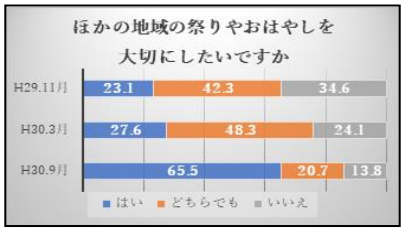

図２　「他の地域の伝統も大切にしたい」と回答した児童の割合

○教科横断的な年間指導計画の作成

研究主任を中心に教科横断的な年間指導計画を作成した。総合的な学習の時間を中心に，全学年において，教科横断的に指導する体制を確立した。これにより，職員に児童の発達段階に応じた系統的，段階的な指導が共有化された。

○リーフレットの作成

本研究のまとめとして，本校の歴史とあんばばやしとの関わり，研究構造図及び成果を示すリーフレットを作成した。これにより，研究概要が可視化され，目指す方向性がより明確化された。

図３　研究リーフレット

３．実施体制

○研究推進体制

稲敷市教育委員会［指導助言］ ⇨ 稲敷市立阿波小学校［モデル校］ ⇦ あんばばやし保存会［協力団体］

⇕

我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究事業推進協議会［地域・市内小学校］

４．今後に向けて

今後の課題については，以下の２点である。

○郷土や伝統芸能だけでなく，さらに，他の地域や諸外国の伝統文化も理解し，尊重する態度を育成していくこと。

○　２年後の学校統合に向け，統合する３校それぞれの地域の伝統についても尊重し，継承していくための教育課程の編成と教育活動の在り方を検討すること。

児童の伝統文化への思いは調査結果に表れたとおり，研究前に比べてより深くなった。これからこの地域の子供たちが成長し，様々な日本の伝統文化，世界の国々の伝統文化に触れ，考えていく機会も増えていく。その時に，自分たちが育った郷土を思い出し，継承者の一人として行動に生かすことができる人材となることを願っている。

今後も，伝統文化を守り，誇りをもって継承していこうとする児童の育成に向けて，社会に開かれた教育課程の編成と実践を継続し，伝統文化を尊重する教育の在り方をさらに追究していきたい。